

牛久：学校周辺に見る自然

第39号 牛久市福田町

2010年10月16日発行

＜ソバの実ができるためには・・・＞

10/12、再び先日のソバ畑を訪れました。満開は過ぎたもののやはりたくさんの昆虫が来ていました。



上左からセイヨウミツバチ、ハラナガツチバチの仲間、ハナアブ（ハチではありません）。蜜を吸いながら花粉を体につけ、他の花に運んでくれます。



左はチャバネセセリ。前号のヒメクロホウジャクのようにホバリングはしませんが、足もストローも長くて、花粉を運ぶとは思えませんね。

下左は何度か話題になっているツマグロヒョウモン。足が長いので、花粉はどうでしょうか？下中のベニシジミと、下右のウラナミシジミは小型のチョウです。これなら花粉をつけて運べるでしょうか？



甲虫の仲間のクロウリハムシも来ていました。ウリ科の作物の害虫ですが、花粉はどうでしょうか？



ところで、前号で「ハチなどが花粉を運んでくれないと実ができない」ということを書いたら、ある方から「同じ花の花粉ではダメなのですか？」と質問を受けました。実はソバの花には雄しべが短く雌しべの花柱が長い長柱花（下左）と雄しべが長く花柱の短い短柱花（下右）とがあって、長柱花は短柱花の、短柱花は長柱花の花粉がつかないと実はできないのです。お互い別のタイプの花粉が付きやすいつくりをしているだけでなく、仮に他のタイプの花粉がついても受精できないようなしくみがあるのだそうです。うまくできていますね。



タイプの花粉がついても受精できないようなしくみがあるのだそうです。うまくできていますね。

【理科支援員・宮内】